

「令和元年度学生生活実態調査（第29回学部学生生活実態調査）」のフィードバックについて

この表は令和元年11月に実施した第29回学部学生生活実態調査の結果、「問題がある」、「改善の必要がある」、あるいは「他より優れている」と判断された事項を学部ごとにとりまとめ、その対応計画とその計画についての進捗状況を示したものです。これら事項につきましては定期的に進捗状況を更新していく予定ですので、学生、教職員のみなさまにつきましてはお気づきの点や改善に係るアイデア等がございましたら、下記までお知らせくださいますよう、お願いいたします。

連絡先：徳島大学学生支援課
E-mail：kyseikatu@tokushima-u.ac.jp

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
総合科学部	アンケートの回収率が低下している。	1・2年生は学部共通の科目にて対応。3・4年生は、ゼミの指導教員に対する働きかけを強化する。	共通科目、ゼミを通じた学生への連絡を強化している。
	自宅からの通学者が増加している。	HPや冊子を通じて、地域活性化という学部の理念を県内の高校生にアピールすることを継続し、同時にグローバル化・健康社会づくりという理念を県外の高校生に対して発信していく。	HP、冊子を通じて左記の事項の発信を行った。また、オンラインのオープンキャンパスでも発信している。
	大学生活の意義を「勉強や研究」に見出す割合が、全学平均より低くなっている。	1・2年生に対して、学科共通科目を通じて、また、ゼミ訪問や、オープンゼミの機会を設けて、専門的な研究の魅力をアピールする。	概ね対応しているが、今後も継続的に取り組みたい。
	「就職や進路」について、就職希望が他学部より多くなっているが、大学キャリア支援室の利用率が低い	ガイダンスなどで、大学キャリア支援室の利用をアピールしていく。	概ね対応しているが、今後も継続的に取り組みたい。
	セクハラとアカハラが存在	教員に啓発をおこない、ガイダンスなどで学生に学生相談室の紹介をおこなう。	概ね対応しているが、今後も継続的に取り組みたい。
	学部への満足度が高い	今後も継続的に取り組むとともに、FDなどを通じ「授業がつまらない」という意見にも向き合っていく。	学部長と学生との懇話会などを通して、学生の意見を聴取し、更なる向上を目指している。

「令和元年度学生生活実態調査（第29回学部学生生活実態調査）」のフィードバックについて

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
医学部	約1割の学生が通学中に交通事故に あっている状態である。	交通ルール・交通マナーの遵守の必要性を周知させる など、交通事故を減らす対応を検討する。	掲示やメール等で安全運転について周知を検討している。警 察関係者等による安全講習の開催も検討している。
	授業料免除を知っているが申請していない学 生が半分近くおり、授業料免除自体知らない 学生もいる。	授業料免除制度を活用、周知してもらう方法を検討す る。授業料免除や奨学金の給付などを通じて経済的な 支援ができるよう検討する。	担当係では、ホームページなどでの効果的な分かりやすい周 知や、窓口では係員が丁寧な説明を行うようにしている。
	アルバイトをしている学生の1割が勉学に支 障を来している。		
	1回で2合以上3合未満の飲酒量の女子が2 割近くおり、飲酒量過多が心配される。	学生全体に過度な飲酒の危険性を周知を図る。	新入生においては、特に入学時期を中心に、新歓コンパや サークルの行事などで過度な飲酒の危険性を周知している。
	昼食の時間、蔵本地区の食堂で混雑がひどい と感じる学生が6割近くいる。	混雑解消が元より望まれるが、蔵本地区全体の問題で あり、大学生協や大学全体で協力して、いかに改善し ていくかを検討する。	大学生協や大学全体として取り組む問題であるとの認識で、 全学学生委員会などへ改善に向けた対応を要望することを検 討している。
	1割前後の学生が何らかの迷惑行為を受けて いる。	学生に注意喚起をし、防止策を適正、迅速にできるよ う適切な対策をとる必要がある。	掲示やメール等で周知を図ることを検討している。医学部学 生委員会では迅速な対応を心がけている。
	オフィスアワーについて知らない学生が半数 を超えている。	オフィスアワーの周知を図り、その活用を促す。	指導教員を始めとして、有効活用の周知を図ることを検討し ている。
	サークル加入率は6割を超え、学生行事や大 学祭に積極的に参加している。	問題点や要望の相談をうけ、この状況を維持、さらな る発展を目指す。	特に対応すべき問題点や要望は、医学部学生委員会で取り上 げ、効果的な対応を取るようにしている。
学部の内容上、進路・就職について明確な学生 が多いが、キャリア支援室を8割以上の学生 が利用していない。	キャリア支援室（蔵本分室）の利用を促進し、就職情 報の広報等により就職支援を充実させる。	指導教員を始めとして、利用促進の周知を図ることを検討し ている。	

「令和元年度学生生活実態調査（第29回学部学生生活実態調査）」のフィードバックについて

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
歯学部	調査の回収率については、前回、前々回よりも上昇が見られた。	引き続き、アンケートへの理解と回答を促す。	アンケート実施時期の通知を掲示板及び教務システムにより連絡している。
	通学中の交通事故に遭遇した学生が増加傾向にある。	各学年に対して新学期開始の時期に学生委員会から注意を促す。	入学時のオリエンテーションでは注意を促しているが、今後2年生以上に対して通知方法を改善する。
	アルバイトによる勉学への支障のある学生、アルバイトにおけるトラブルの経験のある学生はともに20%近くにのぼる。	クラス担任制度、メンター制度、キャンパスライフ健康支援センターなどを利用しやすい環境を整える。	クラス担任との懇談会や相談・意見交換については学年によって差があるので、この点を改善するよう働きかける。
	数%の学生がセクハラ・アカハラを経験している。	クラス担任制度、メンター制度、キャンパスライフ健康支援センターなどを利用しやすい環境を整える。	クラス担任との懇談会や相談・意見交換については学年によって差があるので、この点を改善するよう働きかける。
	多くの学生は授業に満足しているものの「不満足」および「やや不満足」と感じる学生が合わせて2割近くいる。	アクティブラーニングを積極的に導入する。	現状では、アクティブラーニング実施率は低い。今後、学生も授業構築に加わる方向に持っていく。

「令和元年度学生生活実態調査（第29回学部学生生活実態調査）」のフィードバックについて

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
薬学部	学部・授業に対する満足度が大幅に増加し、修学現状には概ね学生は満足している。	引き続き学生との対話等を通じて、ニーズの把握に努める。	各学年の学生の意見を聞く場を毎年設けており、今後も継続する。
	半分近くの学生が何らかの心身の異常を感じている。	心身の健康維持管理を目的としたキャンパスライフ健康支援センターの有効利用を促す。	心身の不調が見受けられる学生に対して、指導教員、キャンパスライフ健康支援センター、保護者、学務系の連携のもとに、迅速で適切な対応を心がけた。
	予習・復習時間が1時間未満の学生の割合が依然として高い（71%）。	FDなどを通じて、学生の自学自習の促進に繋がる授業改善に努める。	引き続き、FD等の機会を通じて、教員に取り組みを依頼する。
	キャリア支援室を利用したことのない学生が89%にのぼる。	現状で就職活動への不満は聞かれないが、一層の支援としてキャリア支援室の利用を呼び掛ける。	就職委員会を中心に、キャリア支援室の利用を働き掛けている。
	悩みや不安を抱える学生の相談先の上位が友人や家族であり、総合相談部門の利用が低調である。	総合相談部門の利用を呼び掛ける。	新学期ガイダンスで総合相談部門の利用を呼び掛ける予定である。

「令和元年度学生生活実態調査（第29回学部学生生活実態調査）」のフィードバックについて

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
理工学部 （社会基盤デザインコース）	「質問76【問74で「1」を選んだ方】就職に際して、会社等の情報をどのように入手しましたか。〈複数回答可〉」について 毎年度、3年学年担任が就職担当教員となりコース・学科へ届いた求人情報の提供やセミナー・説明会の開催など独自の就職支援活動を行っているが、「1. 就職担当教員」の回答割合が少ない。	就職担当教員だけでなく、研究室教員からもコース・学科独自の就職支援活動に関する情報提供や就職活動指導を実施する。	令和2年度は就職担当教員だけでなく、研究室教員からも就職支援活動を実施した。また、令和2年10月以降に就職先が内定していない学生に対しては、就職担当教員が個別にコースに直接届いた出身地域の求人情報を案内する等、就職担当教員からの情報発信を強化した。
理工学部 （機械科学コース）	アンケートの回収率が低い。	学生に配布する際に「必ず回答するように」と念を押す。	対象のアンケートが令和3年度も計画されている。次年度、クラス担任にも事情を説明して、学生への周知に努める予定である。
	学生相談室に対する認知度が低い。	クラス担任、アドバイザーを通して学生相談室に対する情報提供を行うとともに、次年度のオリエンテーションで周知させる。	学生相談室の周知に関して、コース教員へメール配信を行った。
理工学部 （応用化学システムコース）	質問59で、オフィスアワーを利用したことのある学生の比率は、化学は理工学部（昼間）を中心に比較的高いものの、3割弱程度である。質問60によると、教員に質問するのを面倒であると感じていることが利用しない理由に挙げられている。	講義等で、講義内容で理解が不十分な場合は、オフィスアワーや、またオフィスアワーに限らずとも教員が対応可能な時間帯に、教員に積極的に質問・相談するように学生に促す。また、質問59では、オフィスアワーについて知らない学生も2割から4割程度いるので、オフィスアワーについて講義中に周知する。	オフィスアワーの利用割合が3割弱程度に留まっており、教員に質問するのを面倒と感じることが理由の一つとして考えられることを教員間で共有した。また、講義中にオフィスアワーについて周知すると共に、オフィスアワー以外の時間帯においても対応可能な場合があることを伝え、教員に積極的に質問・相談するように学生に促した。
	質問80で、全コースともに、キャリア支援室を利用したことがない学生が高い割合を占めている。	就職希望者、特に、研究室配属された4年生には、指導教員からキャリア支援室の利用を案内する。	就職を希望する研究室配属された4年生には、指導教員からキャリア支援室の利用を案内するようにした。
理工学部 （情報光システムコース・情報系）	他コースと比較し、犯罪の被害に遭った件数が多い。	年度初めのオリエンテーションを学年ごとに行っているが、注意喚起を促す。	オリエンテーションの資料に犯罪防止に関する注意喚起のスライドを作成している。
	他コースより総合相談部門の利用者数が若干多いが、知らない学生が多い。	年度初めのオリエンテーションにて総合相談部門があることを周知する。	オリエンテーションの資料に総合相談部門に関するスライドを作成している。
	質問30で、健康的に気になる症状を持つ学生の割合が他と比べて高かった。	質問29のきちんとした睡眠や、質問34-36の食生活などの回答からも問題が見受けられることから、生活全般での改善を促す。	指導教員や講義の担当教員を通じて、生活に関する注意喚起をお願いする。

「令和元年度学生生活実態調査（第29回学部学生生活実態調査）」のフィードバックについて

	質問53で、授業への出席が良くない学生の割合が多い。	上記と同様、生活改善を促す。	指導教員や講義の担当教員を通じて、生活に関する注意喚起をお願いする。
理工学部 (応用理数コース・数理科学系)	食事はしっかり取れており、昼食には大学生協が比較的多く利用されている。飲酒の割合は少なく、飲む量も少ない。	引き続き、コースガイダンスや面談等を通して学生生活の向上をサポートする。	コースガイダンスや面談等を通して学生生活の向上のサポートが行われている。
	学生相談室の利用が少ないようであるが、クラス担任制度への満足度は高く面談等の利用が伺える。単位の取得状況はよく、授業への出席状況も悪くない。一方で、自宅学習の時間が多くない。	クラス担任による面談等の機会の充実を図り、学習意欲の向上をサポートする。また、各授業での課題やレポートなどの充実を図り、自宅学習の時間確保につなげていく。	クラス担任により個別の面談が実施され、学習状況の確認や相談および生活面での指導と状況把握が行われている。引き続き必要に応じてクラス担任による面談が行われる予定である。
	悩み事の相談に学生相談室が利用されておらず、およそ4割が存在を知らない。	半期ごとに行うガイダンスで周知する。	9月17日開催の自然科学系ガイダンスにて紹介した。

「令和元年度学生生活実態調査（第29回学部学生生活実態調査）」のフィードバックについて

部局名	調査結果から読み取れる事項とその対応計画		対応計画実行の進捗状況等
	事項（問題点や優れた点）	対応計画等	
生物資源産業学部	学部専用棟がないにも関わらず、図書館利用等により学生自身が工夫し勉学に励んでいることが伺え、まじめな学生が多いように思う。	学部専用棟建設は必須であるが、学部設立時とは違い休止した感もあり、大学全体の問題として取り組む必要がある。	引き続き全学的な対応をお願いしたい。
	キャリア支援室を利用したことが無い学生が70%である。	新学期のガイダンス等でキャリア支援室についての説明を行う。 学生にキャリア支援室の活動を周知し、利用をすすめる。	新学期のオリエンテーション等の機会にキャリア支援室についての説明を引き続き行う。
	授業内容がつまらない。教員の教え方に工夫が足りない。 授業に満足できない理由の67%が「授業内容がつまらない」である。	具体的な内容を調査する。学生の意見が妥当であるならば各教員に改善をお願いする。 学生が興味を持てる内容の講義をするよう、アンケート調査の内容を共有する。	半期ごとに学生に授業評価アンケートを実施し、その回答を基に授業担当教員が授業改善案を作成している。既に令和2年度前期の分についても、授業改善案を作成した。
	授業の予習・復習時間が少ない。	教育効果が上がるように自学自習を促す取り組みを工夫する。	オンライン授業の増加に伴い、学生の自宅での学習時間も増加したと考えられるが、引き続き指導教員やクラス担任、授業担当教員から学習を促す。
	図8-6にあるように技術専門職を希望する学生が多い。また図8-7にあるように他学部と比較してキャリア形成に意識をもつ学生が多い。この意識を伸ばすような教育システムを構築するべきではないか。	現在進行中の授業改革に反映させる。	令和3年度入学生から適用される新カリキュラムにおいて、1年次前期開講の「キャリアパス」の授業内で、アントレプレナーシップの内容を取り入れる等、早い段階からキャリア形成の意識向上に努める。
	アカハラ、セクハラ、ストーカークの発生率が少ないが、迷惑行為を受けたものが約1割いる。これを「非常に低い」と評価するのはいかがかと考える。	発生している事実があることから、限りなくゼロにするように大学と部局が対応をしなければいけない。	引き続き全学的な対応をお願いすると同時に、学部側でもオリエンテーション等で周知する。もしハラスメント等が発生した場合の連絡・サポート体制を整える必要がある。
	通学中の交通事故が13%と高い	交通安全に関する掲示等で呼びかける。 新学期のガイダンス等で交通安全の指導を行う。	新学期のオリエンテーションで、交通安全の指導を実施予定。
	飲酒、喫煙をしない学生の割合が高い。	今後も継続して、飲酒喫煙をしない生活を呼びかける。	新学期のオリエンテーションで、過剰な飲酒喫煙の危険性について周知する予定。
	何となく大学生活を送る学生の割合が高い。	各指導教員に対して、引き続ききめ細かい指導をお願いする。	指導教員やクラス担任が、学生と普段から連絡を取り合い、コミュニケーションを円滑に進める。

「令和元年度学生生活実態調査（第29回学部学生生活実態調査）」のフィードバックについて

<p>悩みを相談できる相手がいない学生が2割いる。</p>	<p>普段から掲示などで総合相談部門の利用を呼び掛ける。 各指導教員や、クラス担任に対して、きめ細かい指導をお願いする。</p>	<p>指導教員やクラス担任が、学生と普段から連絡を取り合い、コミュニケーションを円滑に進める。</p>
<p>経済的に困難でアルバイトを行っている学生が多い。（33%の学生が経済的に苦しいと回答している。）</p>	<p>給付型奨学金や授業料免除が新制度になって、これまでの制度のものと採択者数、金額等の比較を行い、低下しているようであれば、学内で補填できる制度を考える。 授業料免除や給付型奨学金の拡充について国に働き掛ける。</p>	<p>引き続き全学的な対応をお願いしたい。</p>